

建設経済常任委員会記録

日時 令和8年5月13日（水）

場所 第三委員会室

午後 3 時 3 0 分 開 会

○佐藤喜紀委員長 ただいまから建設経済常任委員会を開会いたします。

本日は全員出席であります。

直ちに本日の会議を開きます。

1 政策提言について

○佐藤喜紀委員長 皆様、2班に分かれての意見交換会、大変お疲れ様でした。

本日の会議のねらいは、それぞれの会場で得られた現場の生の声を全員で共有し、次回5月26日の委員会で決定する政策提言テーマの方向性を定めることにあります。限られた時間ですが活発な討議をお願いいたします。

まず初めに各班のヒアリング結果を共有します。私からは農業委員会との意見交換について。続いて武田副委員長からはA社との意見交換についてそれぞれ要点を報告したいと思います。

それではまず初めに私の方から農業委員会との意見交換の報告をさせていただきます。出された意見を少し集約しますと、当初テーマ候補として、農業の担い手不足の解消あるいは経営基盤強化を政策提言のテーマにしてはどうかということで、関係団体である農業委員会との意見交換を行わせていただきました。農業委員の皆さんは、酪農家、砂丘地での園芸農家、それから稲作農家といったような方に参加いただいたわけですが、自然と話の流れは稲作の方へ傾きました。実際、酒田市だけに限らず全国的にも農業経営体は減少傾向にある。ただ経営体が減少している中でも、農地、特に水田の方は減少していない。これはなぜかといいますと、1経営体当たりの耕作面積が増えている状況にある。そんな中で新規就農者については国県からもいろいろな支援があるものの、規模拡大への支援はなかなかないというような意見。それからやはり農家は、旧公民館地区と言いますか農村での農業経営が主なものになっている中で、やはり農地を守り、農村環境を守り、農村文化を守っていく新規就農者に対して酒田市単独での支援がないというようなお話もいただきました。それから1経営体当たりの耕作面積が増えているということで、小さい田んぼ、30アールの田んぼが酒田市の平均であるわけですが、作業効率が悪いなどという意見の中で、大区画化事業への支援もいただけないかというような声もいただきました。それから酒田市の水田の8割はオープン水路であります。これは水路に蓋がないということで、法面の草刈り作業も重労働であるということから、こういったオープン水路の管路化への支援もいただけないかというようなお話もありました。それから、経営体が減っている一方、経営面積が大きくなっているということで、昨年あたりの米価から遡っていきましても、中小企業並みの所得、売り上げの農家も大変増えているということで、経営管理、こういったものも強化するために市の方でコンサルを派遣していただくとか、財務管理セミナー等の開催への支援も行えないかというような意見が出されたところでありました。私の方からは以上です。

次に、A社との意見交換の様子について、武田副委員長より報告をお願いいたします。

○武田恵子副委員長 私の方からはさっと報告しますが、足りないところはいらした他の委員の皆さんからぜひ補足していただきたいと思います。経営者努力として女性活躍について取り組んできたのは2019年、政府が女性活躍推進の方針を打ち出したことから、何か取り組めないかということで、男性も女性も働きやすい職場環境作りに取り組み始めたそうです。女性は最初、事務員しかいなかったそうですが、女性が技術職にも配置できるのではないかとということで、産休明けの女性職員に話をしたらやってみたいということで、溶接の仕事をさせたら、丁寧で仕上がりが良くて男性よりも適しているのではないかと考えて、今そこから進んでいるということでした。

それからもう一つは「えるぼし」ということで頑張ってきています。後から入った女性職員にとっては、えるぼしが求人票にあるということは魅力だったそうです。えるぼしを取るために女性用のトイレを増設したそうです。これからも女性が増える見込みなので、今のままでは足りなくなるからお金がかかると思うけれども、その辺の補助は無理だろうなというようなこともちらっとおっしゃっていました。それから30人いた職員が、今40人まで増えているそうですが、そうしていくと若い人が増えてきます。若い人を増やして育成して、一人前の機械器具設置資格を取るまでには10年ぐらいの時間がかかる。資格が取れるまで独り立ちできなくて、今、有資格者の年配の方に付いて常に一緒に仕事をしていかないといけないというところで、人材育成に時間とお金がかかっている。それを頑張ってやっていかないと会社は成り立たない、10年かかるということでした。

それから残業して練習しようとする、残業させられない今の働き方改革の中で大変な工夫が必要だということでした。昔は残って溶接技術を上げるために練習したけれど、今はできないということでした。慢性的な人手不足は、先ほど言ったとおり、常に資格のある人と一緒にいないといけないので大変ですということと、職人が必要だということ。でも、昔の職人はプライドを持っていたけれど、今はそういうのではなくて、きちんとやっていく時代になったということです。

外国人も入るけれど、日本人がいないと成り立たない状況だそうです。そういうこともいただきました。それから資格を取らせるために研修にも行かせますが、それは全て交通費、宿泊費、全部会社持ちで、その負担も大きいということでありました。結局、中小企業は同じことをやっても、1人を研修に出すにしたって、大企業とは負担割合が違う。同じ経費でも、大企業の1人と、30人、40人の会社の1人では経費のかかり方が違うということで、雇用を増やし続けるための支援があるといいなということでした。

それから高校生に残ってもらいたくて、地元の高校生を採用するための就職説明会に行くと、大企業とわが社では、PRビデオの格が全然違って、大企業に行きたいなって思われてしまうと感じる。その動画作成に補助できないかということもおっしゃっていました。

かつて離職率は高かったのですが、今、だいぶなくなってきた。就業規則の見直しもいろいろやったようですが、今、有給休暇の取得率は年間平均11日。かつての2倍だということです。遠慮なく取れと言っているということでありました。そういう工夫をして、今やっているということです。

そして賃金ですが、男性も女性も関係なく同一労働同一賃金を旨としているということでありました。なお、事務と技術の方は若干違いがあるということでした。

経営側の説明が終わって、女性陣からなぜこの企業に勤めようと思ったのかっていうようなことを聞いて参考になるところですが、先ほど言ったように、えるぼし求人票の募集を見ていいなと思った。産休育休制度がきちんと明記されている。それから、A社は平均勤続年数が長かったのでここは長く働き続けられる場所だと思ったということです。もう1人は高卒だけど、酒田に残って働きたかったし製造業に興味があった。やっぱり決め手はえるぼしということでした。戻ってきた人が1人いまして、横浜で結婚して子育てしたけれど、この環境よりはできれば実家酒田ののびのびした環境で、自然がいっぱいある環境で子育てしたいと思って、神奈川県生まれ、神奈川県育ちの旦那を説得して酒田に来たそうです。彼女もどこに就職するか探したときに求人票を見たそうです。基本、酒田は比べ物にならないほど給料は低い。しかしA社は賞与の表記が何十何万とかでなくて、基本給の何か月分という表記になっていた。これは給与体系がきちんとしているなということで決めたそうです。

酒田にこんなものがあるといいなとか、戻ってきたいとみんなは言うけど、戻らないのはなぜか。交通の便はなんたって車が必要だし、買い物に行くにも、遊ぶにも、それから東京の行き来が不便というようなこと、所得の格差が大きいこともおっしゃっていました。ミライニによく資格の勉強をしに行くけれど、高校生がいっぱいで座りにくいそうです。そういう人たちのスペースがミライニに欲しいなということでした。本当にえるぼしで頑張っているということでもあります。

それから社長が最後に、酒田に残って働く人には自動車免許取得の補助を出したらどうか。それを政策に掲げる市長候補はいないだろうかということで落ちが付きしました。

○佐藤喜紀委員長 武田副委員長、ありがとうございました。

少し振り返りになりますけれども、4月10日の委員会で政策提言の分野を一つに絞る中で産業振興という分野から、テーマの候補である「若者女性にとって魅力的な雇用の創出と賃金向上」ということで武田副委員長の班からはA社へ、それから私の班では農業委員会と「農林水産業の担い手不足解消と経営基盤強化」ということで、今日意見交換をさせていただきました。政策提言のテーマ決定のマニュアルの中でも、5月中旬くらいまで関係団体との意見交換をして、5月26日の委員会で政策提言のテーマの決定というような流れになっております。分野が似ていたこともあります。共通する点としましては、「働く環境」、当然現場のニーズというような言い方が一つあると思います。もう一つは「働き続けられる環境」が共通しているのかなと感じたところです。

今、私と武田副委員長とから報告があった中で、政策提言のテーマとして、これを取り扱うべきではないかというような点について委員の皆さんからのご意見をいただきたいと思います。何かございませんか。

田中斉委員。

○田中斉委員 今、お話を聞いて、給与格差も大きいし、ただ酒田に残るビハインドをどれだけ少なくするかっていう部分は、農業は農業で国へのいろんな課題があるわけですけども、一番は企業誘致の可能性が全くなく、ITしか考えてないっていう部分があります。この中にはないですけど、一つ掘り下げれば、土地開発公社を戻さなければならないと考えます。賃金格差がこれだけあって大きい企業もない、中小企業もあるわけだけでも、一番若者を残すにはやっぱり賃金しかないと思う。そうやって考え、守屋委員も質問したりしたけれども、他の近隣市町村でも平気でやっている。酒田市の場合は土地開発公社の時代は終わった

として整理して全部なくしたけれども、なければもう一回作ってできるわけだから、それで計画的に10年先20年先といった企業を真剣に誘致する姿勢は、やっぱり市民も見ていると思います。今、思ったままに申し上げました。

○佐藤喜紀委員長 暫時休憩します。

午後 3 時 5 0 分 休 憩

午後 3 時 5 2 分 再 開

○佐藤喜紀委員長 再開します。守屋委員。

○守屋紀彦委員 私はA社の方に今回行かせていただいたんですけども、A社はやっぱり女性をどんどん雇用しようという取組では、おそらく酒田ではトップクラスのいろんな施策をやられている会社で、実際話を聞いてそう思いました。いろんな話は出ましたけれども、要望としてはやっぱり大企業とA社のような中小企業とでは、例えば人材募集の動画を作ったときに、大手のものすごいお金かけた動画と、自分たちの動画とであまりにも格が違いすぎて、若い人への影響が全然違うというので、やっぱりその辺の動画の制作補助もあればというお話ですとか、研修に行かせるための費用がとてにかさむということで、その辺もあれば助かるということです。若者が残るには、地元の中小企業に働くことを条件に自動車免許の取得を市の方で考えたらいいのではないかというお話もありました。いろんな話が出た中で、全体的に正直、A社はかなりやっているの、適切に運営されている印象で、行政に対して何か求めたいというよりも、あれば助かるという程度という印象でした。今年度から酒田市の方でも、働く酒田イノベーション戦略という若者・女性に選ばれるための新しい取組を5年間かけて取り組むということもあるので、政策提言をするという意味では、A社に行って要望をよく聞けなかった。酒田市としてもイノベーション戦略という新しい強力な戦略を当然やっていくので、提言するという意味ではあまり進まないというのが行ってみた実感でした。なので、農業関係の方に絞って討論していった方がまとまるんじゃないかなと思いました。

○佐藤喜紀委員長 他にございませんか。齋藤委員。

○齋藤直委員 私もA社に行かせてもらいました。改めてA社の産業振興は、守屋委員からもあったようにトップクラスでありまして、A社のホームページをちょっと見させてもらったんですけども、持続可能な地域社会の発展と働く人たちの幸福を理念としていてありました。まさに今日、社長や総務部長あたりからも話を聞いたんですが、働く人たちをすごく大切にしている会社だなと思ったところです。とにかく気配り。先ほど副委員長からもありましたが、2019年から女性活躍推進法の関係で、えるぼし認定とか様々取っていますけれども、本当に働く人たちを一番に見て、特に社長が、冗談かどうかは別として、上司がいると言いたいとも言えないし社員の皆さんが仕事しやすいように自分はもう3時半に率先して帰るとか言っていました。そんな形で、社員のことを大切にしていたと思います。動画作成では大企業もお金をかけて新規雇用を取ろうというイメージはありますが、しかしながら思ったより困ったところはなかった。委員長からも先ほど農業委員会との意見交換について説明がありましたけれども、担い手の不足というか、稲作の減少傾向だけれども耕作面積が増えているっていうお話もありましたし、新規就農者への支援がない、オープン水路の草刈りとか、セミナー等の開催とか、様々な要望や課題の提案があったのかなと思いました。私も農業をもう少し勉強してみたいなとも思いますので、産業振興は大切でどちらも大

切ですけども、農業関係にテーマを決めたらいかかかなと思ったところです。

○佐藤喜紀委員長 他にございませんか。安藤委員。

○安藤浩夫委員 今A社のお話も聞いて、自動車免許取得の支援っていうのは、農業後継者だろうが、高校生の支援っていうのは非常にいいなと思いました。ただ農業委員の方があまりにも切実で、農家は減っているけれども、平場の耕作面積は82%ぐらい集積が進んでいる。中山間地に対しての支援が少なく、ますますこれから集積、集約を進める上で、農地への支援っていうか、管路排水だとか、大型化っていうかが必要だろうと。

イノシシやクマの被害対策の電気柵の補助だとか、黒森の方からは松枯れ被害対策の植林計画を急いでいただきたいとか、中間管理機構を通して今やっているわけですけども、そのスピードが遅いだとかいろんな苦情がいっぱい出ています。持続可能な農業経営基盤の確立っていうか、そのための農地への支援だとか、担い手の経営感覚を養うための酒田市の支援だとか農業系のコンサルを入れるだとか、そういうものが必要だという意見が出たものですから、そういうものをテーマにして行った方がいいのではないかと思います。

○佐藤喜紀委員長 ありがとうございます。政策提言を振り返って考えたときに、最終的には政策提言として出すだけでなく、引き継いで次の委員会の人が検証を行っていくと。その中で予算化されているかどうかをチェックするわけです。農業に関しては、当然市単でできるようなものはないです。ということは酒田市の方から、国県への要望を強力にしてもらうとか、そういう意味も含めて、農業委員会の皆さんからは本当に切実な意見をいただいたと捉えたところでありますけれども、今のところ守屋委員しかり、齋藤委員しかり、安藤委員しかり、テーマを農業関係ということで意見がでておりますけれども、他の皆さん方のご意見はどうでしょうか。池田委員。

○池田博夫委員 ただいま委員長からある程度まとめていただいた感じがいたします。製造業のA社も本当に大事な仕事ですけども、私も今日農業委員会の話を聞いていまして、やっぱり切実な訴えもあったのかなと思います。そういった意味では今、委員長も言ったとおり、酒田市単独でできるようなある程度ものっていうのはなかなか厳しいところがあります。でも、経営者の管理強化への支援とかはある程度できると思うんですけども、大規模大区画化、オープン水路とか、そういうふうなものはやっぱり県に積み上げて、それから国の方に持っていくように、基幹産業である農業を実現するように、我々もやっぱり頑張っていくべきなのかなと思った次第です。

○佐藤喜紀委員長 他にございませんか。市原委員。

○市原栄子委員 今のところどちらをテーマにということまでは行ってないですけども、私はA社の方に参加させていただきました。今働いている方たちからは、えるぼしが求人票にあったから女性が働きやすいのかなって、そのまま新卒でそこに働くようになったという話がありました。企業の方ではえるぼしとかくるみんを取るために、それなりの環境整備をしなければならない。それが中小企業にとっては大変厳しいという話もあったんです。えるぼしやくるみんとかユースエールを取るための企業に対する何かしらの補助なり助成なり、酒田の子どもたちが、女の子たちが、新しい就職情報を見たときに、これを取っているというようなことが必要なのではないかと話し合いの中で聞いていました。

あともう一つは、私達はついつい企業誘致、大きな企業が来てくれればそれだけたくさん就職があるって言うんだけど、中小企業にとっては結構怖い話。自分たちに本当なら来て

くれるような子たちが大企業はやっぱり給料もいいですし、全国規模だと宣伝も多いしということを考えると、やはり地元企業っていう方を注視してもらいたいっていうようなお話もありました。ただやっぱり企業誘致も一定は必要だろうなと思いながら、そこら辺もこれから考えていくのはいいのかなとお話を伺いながら聞いてきました。

○佐藤喜紀委員長 今回の段階ではテーマとしてはどちらがどうというような意見はないということでしょうか。

○市原栄子委員 はい。

○佐藤喜紀委員長 他にありませんか。武田副委員長。

○武田恵子副委員長 副委員長としてA社に行かせていただいて、若者・女性雇用の課題をどうしてきたのかっていうところで学ばせていただきました。大変ありがたかったです。これから建設経済常任委員会として何をテーマにしてやっていけばいいのか、先ほどから考えていました。委員長がおっしゃるように、まずは予算化のチェック。その次、政策実現として予算だけでなく、提言したものが実現していくように行政が動いているかというチェックをしなきゃいけないわけです。それをしやすいのはどっちだろうってまだ頭の中で整理できていません。これが1点。

農業委員会の皆さんの話を聞けなかったのはとても残念に思うんですけども、農業全般に課題はいっぱいあるんです。畑作も含めて話したけど、最終的に稲作に収斂したわけです。前から気になっていたんですが、やっぱり産業はいろいろあるけど、なんだかんだ言って酒田市で農業を抜きに語っていいのか。工業も大事だし、商業も大事だし、みんな大事だけど、農業を粗末にしているのかっていうところが頭の中にありまして、基盤産業である農業をどう作って所得を確保して酒田の経済を支えていくのかっていうのがないと、そのときそのときの景気で企業にとなってしまうので、やっぱり安心して暮らせる酒田は、ここで農業していけば、食っていけるんだというまちを作っていけないと駄目なんじゃないかなということはずっとあるんです。その辺で、その課題をうまく整理できるのかがよくわからないです。

○佐藤喜紀委員長 ありがとうございます。暫時休憩します。

午後 4 時 9 分 休憩

午後 4 時 11 分 再開

○佐藤喜紀委員長 再開します。貴重な意見ありがとうございました。本日出されました具体的な意見については、正副委員長で整理し、次回の委員会で政策提言テーマを決定したいと思います。

2 その他

○佐藤喜紀委員長 その他に移ります。委員の皆さんから何かございますか。

(なし)

○佐藤喜紀委員長 事務局から何かございませんか。

(なし)

○佐藤喜紀委員長 それでは、これをもちまして建設経済常任委員会を閉会いたします。お疲れ様でした。

午後 4 時 12 分 閉会